

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 3 月 8 作成)

小委員会名	環境振動設計ガイド策定小委員会	主 査 名：濱本 卓司 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：国松 直
設 置 期 間	2015 年 4 月～2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・現在改定作業が進んでいる「建築物の振動に関する居住性能評価指針同解説」を設計実務において活用するための設計指針の策定を目的とする。 2015 年度：設計指針策定の方針を決定するとともに WG を形成して具体的な策定作業を推進する体制を整える。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (3 名)	
	主査：濱本卓司 (東京都市大学) 幹事：国松直 (産総研), 上明戸昇 (建設環境研究所) 委員：横山裕 (東京工業大学), 石川孝重 (日本女子大学), 松本泰尚 (埼玉大学), 井上勝夫 (日本大学), 高野真一郎 (大林組), 原田浩之 (三井住友建設), 佐伯兼久 (ヤクモ)	
設置 WG (WG 名：目的)	環境振動設計指針策定 WG:「床振動 (歩行中心)」,「交通振動 (道路中心)」,「自然外力 (風中心)」の 3 つの SWG を作り,最終的に SWG を統合して全体調整を進め「設計指針」の最終原稿を作成する。	
2015 年度予算	10,000 円	ホームページ公開の有無：有 (運営委員会 HP の一部) 委員会 HP アドレス：news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.htm

項 目	自己評価	
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)	
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)		
講習会		
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 34 回環境振動シンポジウム 資料名：同上	参加者数 108 名
大会研究集会		
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 今年度を含む最近の環境振動シンポジウムを通じて設計指針の策定方針を説明し現状を報告してきた。	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 新しい評価指針に準じた設計指針の策定の方向性を決定した。 2. 具体的な策定作業のための WG を本小委員会の傘下に作った。 3. 次年度からの WG 活動における役割分担を決定した。	
委員会活動の問題点・課題	1. これまでは設計指針の考え方について議論を行ってきたが、次年度より具体的な指針策定作業に入るため、実務に詳しい新たな人材を加え、さらに委員会の傘下に WG を作って次年度以降の活動にとって好ましい体制を整えた。	

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	今年度の活動を通じて以下のような成果が得られた。 1. 新しい評価指針に準じた設計指針の策定の方向性を決定した。性能設計の枠組み，時間軸の導入，振動源によるグループ分け，および振動測定的设计行為における位置づけに留意した。 2. 具体的な策定作業のための新たに WG を本小委員会の傘下に作った。WG により設計指針の原案を作り，それを小委員会に上げて精査し，徐々に完成度を高める方法を採用した。 3. 次年度からの WG 活動における役割分担を決定した。3つの作業に分け，それぞれの分野にふさわしい人材を新たに募り，短期間で成果の上がる体制づくりを行った。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。